

共同蔵移轉寄附人夫表 (掛札一覧表⑦)

大正6年 3月

310



1938

「共同蔵」は、恐らく現在の丸端の大師堂付近にあつた白壁土蔵のことかと思うが、この土蔵は明治十四年に新築したとの記録があり、それから三十六年後の大正六年に「移転」ということにはなるまい。その土蔵は昭和三十年当初頃まで存在したので、どこからかそこへ、或いはその土蔵からどい転した際の勤労奉仕「村普請」（今まで）の記録だと思ふ。また、「寄附人夫表」とあるし、金額の表示がないので、「拾人七分」とか「壱人四分」などの表現は今までいふところの M H（マンニアワード）だとは思うが、数値の評価概念がよく分からぬいし、記載順は五十音でもないし M H の多い順番でもないようだ。

このような記録が後世に伝えられ、百三年ぶりに目のだが、掲載される方々はたしかにこの村（海吉出村）の住人であったわけだから、特にその子孫の諸賢においては、ご先祖の徳行をどうか解明していくただくよう、心から期待する。